

# 2013 年度日本社会事業大学卒業生のキャリア形成と福祉系大学の役割に関する調査研究報告書 (第三報)～学部・専門職大学院・通信教育科卒業生それぞれのキャリア形成ニーズの特徴と比較～

## I. 研究の背景と目的

近年、社会ニーズの変化に対応するため、より高い専門性を持つソーシャルワーカーが求められるようになった。日本社会福祉士会は、認定社会福祉士や認定上級社会福祉士の資格を制度化していることから、社会福祉専門職には高度な知識や技術の習得が求められることが予想される。しかしながら、力量あるソーシャルワーカーの育成方法を検討するのに必要な、日本の福祉人材のキャリア形成過程はこれまで十分に明らかにされていない。さらには、歴史の浅い日本の福祉系大学の専門教育においては、資質の高い福祉人材を育成するに相応しい、実践現場のニーズを踏まえたリカレント教育の内容や教育方法、生涯学習支援体制に関する指針は未だ定式化されていない。

日本社会事業大学は、英語名称において日本で唯一ソーシャルワークを名乗る大学として、社会福祉学部に加えて、大学院社会福祉学研究科（研究大学院）、福祉マネジメント研究科（専門職大学院）、通信教育科を設けている。福祉実践に関わるソーシャルワーカーが生涯にわたって資質向上をはかることができる教育体制を整えて来た。

本研究では、日本社会事業大学の各部局（学部、専門職大学院、通信教育科）を卒業した人たちのキャリア形成の現状とニーズを、部局ごとの特徴を踏まえて明らかにすることを目的にする。併せて、高い専門性を持つソーシャルワーカーに重要と考えられる福祉プログラム評価教育や科学的根拠にもとづく実践(EBP; Evidence-Based Practices) に関するリカレント教育へのニーズを把握し、これからの福祉系大学卒業生のキャリア形成に必要な要素を検討する。この報告書は、2013 年度に実施した社会福祉士通信教育科の卒業生に対する調査を中心に、福祉職としての勤続年数、介護職の経歴の有無を中心にその特徴を明らかにした。

## II. 調査方法

日本社会事業大学社会福祉学部、専門職大学院、精神保健福祉士通信教育科、社会福祉士通信教育科の卒業生のうち職業キャリア形成期または再構築期（卒業直後から 60 代前半を想定）該当者に対し、自記式アンケート調査票による悉皆調査を行った。この調査を実施するにあたり、本学学部卒業生名簿を管理する日本社会事業大学同窓会に協力を依頼し、提供された本学学部卒業生の名簿を基に、調査依頼状と調査票を郵送した。

### 【研究期間】

社会福祉士通信課程卒業生に対する調査は、2013 年 7 月～2014 年 2 月を調査期間とし、この期間に回収された調査票を分析対象とした。また学部卒業生対象調査は 2012 年 1 月～2012 年 5 月に、専門職大学院と精神保健福祉士通信課程卒業生に関しては 2013 年 1 月～4 月に調査を実施した。この期間に回収された調査票を分析対象とし、社会福祉士通信課程卒業生の結果と比較した。

### 【分析方法】

行われた分析は、大きく下記の 4 種類に分けられる。1) 学部・専門職大学院・精神保健福祉士通信課程・社会福祉士通信課程の 4 群比較 2) 社会福祉士通信課程卒業生を対象とし、福祉職としての勤続年数による 4 群比較 3) 社会福祉士通信課程卒業生を対象とした、「介護福祉士を持っている介護支援専門員」「介護福祉士を持っていない介護支援専門員」「介護支援専門員に該当しない」の 3 群比較

4) 社会福祉士通信課程卒業生を対象とした、現在従事する業務内容による比較 なお、分析には SPSS 17 が使用された。

#### 【倫理的配慮】

本研究は日本社会事業大学社会事業研究所研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。回収された調査票は、記名・無記名に関わらず、個人名等が特定されぬようコード化した。

### Ⅲ. 結果とその考察

#### 1. 対象者の概要

学部を含め全課程に通じて女性が多く、通信教育科社会福祉士課程(以下、社会福祉士課程)は他の課程と比べて、年齢層が高かった。入学時の目標として、通信教育科で資格取得、専門職大学院では専門知識・技術の習得を目標にしているものが多かった。

また入学前の業種としては社会福祉施設、公務員が多く、福祉職としての勤務年数は、学部では 20 年以上、通信教育科は 10-20 年が最も多かった。所持する資格として社会福祉士課程では、介護福祉士、介護支援専門員資格取得者が多く、学部では教諭、養護教諭資格取得者が多かった。福祉職として勤務する上で、資格取得や専門知識・技術の習得により、キャリア形成をして継続した勤務を実現していると考えられた。

#### 2. 卒業後キャリア形成の概況

本学の卒業後進路として、専門職大学院、通信教育科の卒業生は社会福祉施設・事業所が多く、業務内容においては全ての課程で相談業務が多かった。しかし専門職大学院、通信教育科卒業者に、管理・運営業務従事者も多く、管理業務に携わりながらキャリア形成を望んでいることや、キャリア形成をしたことから教育・研修業務を担うようになると考えられた。

#### 3. キャリア形成の機会と意識

キャリア形成の志向については、社会人経験が、専門職としてのキャリア形成志向を強めていることが伺われ、経験を積むほどにその方策を検討するようになると推察され、経験を積んだ専門職へのリカレント教育プログラムの構築が、求められていると考える。また転職経験等について、結婚・育児のために離れた者も合わせると、約 6 割が休職・離職・転職している。一方、キャリア向上のために転職や進学を選ぶ群も存在し、キャリア形成上の課題と、そのために教育機関が果たす役割の検討が課題である。またキャリア形成を良くするために必要な要素では、対人支援専門職としての悩みや、組織の管理・運営に係る個別スーパービジョンを受ける機会の保障が課題であることが明らかとなった。

#### 4. キャリア形成状況への満足度

現在のキャリア状況に関する満足度、キャリア形成の状況に対する満足度は、ともに卒業課程による大きな差異はなかった。入学目的に照らして達成できたことでは、社会福祉士は、精神保健福祉士に比べて、資格取得をあげた者が少なかったが、合格率の違いによるものと推察される。また演習形式の講義からの専門的技術の習得を挙げた者が多かった。両課程とも受講生同士の人脈・ネットワークの形成も 20%以上の満足度があり、質の高い学生が集まる社大通信生の特徴を表している。

## 5. 大学が行うキャリア形成教育プログラムへの関心

大学が提供するキャリア形成教育プログラムについて、「関心のある取り組み」としては「リカレント講座」への関心が最も高く 47.9%の高い値を示した。より高い実践力を身につけるトピックス的テーマや基盤となる実践力養成をめざす短期コースの学びの場に対するニーズの高さを示している。一方で「学内学会」は合計で 14.7%と低調であり、キャリア形成教育プログラムとしては企画・構成面での検討を要する。種々のプログラムに期待される目的としては、「専門的知識の習得」が合計で 45.9%と最も多く、次いで「専門的技術の習得」が合計で 40.0%、「スーパーバイザーとしての能力の習得」33.1%、「経営・管理能力の習得」26.1%、「実践的研究能力の習得」23.1%と続いている。

通信教育で学んだことへの「満足」は 45.1%、「どちらかという満足」が 41.2%ある。入学目的に照らして達成できたことについては、「資格の取得」が 83.1%と最も多かった。次いで「専門的知識の習得」63.6%、「専門的技術の習得」23.6%、「受講生同士の人脈・ネットワークの形成」20.3%と続く。在学中にあれば良かったと思うオプションについて、社会福祉士課程では、「国家試験対策に関するもの」が 30.3%で最も多く、次いで「社大工学部・専門職大学院・研究大学院の講義の聴講」が 28.8%、「社大講師陣による特別講義」と「成年後見に関する講座」が 26.9%であった。精神保健福祉士課程では、「施設・関係機関見学」が 38.3%で最も多く、「社大工学部・専門職大学院・研究大学院の講義の聴講」が 35.8%、「ゼミ形式の少人数での学び」が 35.2%と多かった。回答が集中する項目がなく、通信教育科学生には幅広く多様なニーズがあることがうかがえる。

## 6. 根拠に基づく実践(EBP)・プログラム評価への関心

EBP の認知度に関する問いでは、EBP に取り組んだ経験があり具体的に知っている者の割合はいずれの群でも 1~2%であり、群間に大きな違いは見られなかった。ただし、「ほとんど知らない」を選択した者は専門職大学院修了者が約 3 割と最も少なかった。EBP プログラムの学習・実施経験は、SST (Social Skills Training) が最も多く、なかでも精神保健福祉士通信課程卒業生でその割合が高かった。

EBP の有用性認識に関する問いでは、EBP が「大いに役に立つ」、「ある程度役に立つ」と回答した者の割合が、専門職大学院修了生および精神保健福祉士通信課程卒業生で 5 割以上を占めた。また、この 2 課程は、EBP プログラムの研修への参加意欲に関する問いにおいて、「大いにそう思う」、「そう思う」と回答した者の割合が 6 割以上、EBP プログラム等の実施・普及の活動への関与に関する問いにおいて「大いにそう思う」、「そう思う」と回答した者の割合が 65%以上、EBP を「大切なことなので自らそのように実践したい」と回答した者の割合が約 4 割、日本社会事業大学大学院福祉プログラム評価履修コースに「大いに関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した者の割合が 6 割以上を占め、いずれも、他の 2 課程と比べて相対的に割合が高かった。

課程による EBP に対する関心度や認識の違いは、各課程に入学した動機や属性等の背景、および福祉職としての勤務・活動領域の違いが関連していると思われる。例えば専門職大学院修了生は他の課程卒業生よりも、入学時の目標に専門的知識・技術の習得や、現場・地域を変える力量の形成を設定していた者の割合が高かった。これらの目標は、福祉サービス利用者や実践現場・地域のニーズに対して、より効果的な実践を求める志向性が高いものと考えられる。このことが、EBP や効果的な実践プログラムを構築するプログラム評価アプローチへの関心の高さや、有用性認識の高さに反映したものである。文献検索サービス CiNii (NII 学術情報ナビゲータ) で「根拠に基づく実践」を検索ワードとすると 23 件がヒットするが (2014 年 6 月時点)、そのうち 13 件は医療・保健・看護領域あるいは精神保健福祉領域に関するものであった。精神保健福祉士通信課は、医療機関に勤務経験のある者の割合が他の課程よ

りも高かった。精神保健福祉士通信課卒業生における EBP やプログラム評価への関心や認識への高さには、こうした背景が関連していると考えられた。

CiNi で同検索結果からは、社会福祉実践、ソーシャルワークにおけるエビデンスの必要性を強調する文献が散見される。プログラム評価アプローチは、エビデンスに基づく社会福祉実践・プログラムを構築する方法論のひとつであり、社会福祉専門職に必要な視点と言える。EBP の実施経験を有する者の割合が非常に低かったことや、EBP が大切であるが実践するのは難しいと認識している者が一定程度いたことから、大学教育や大学院教育、あるいは卒業生のキャリア形成に関する継続支援において、EBP そのものやその実践への展開、実施・普及に関わる内容をより積極的に行っていく必要性を示唆するものと考えられる。

## 7. キャリア形成類型別分析

社会福祉士養成課程は、社会人が多く学ぶ課程である専門職大学院や通信教育科の精神保健福祉士養成課程の卒業生と異なる特徴があった。その特徴を中心に 7 章で追加の分析をしている。

一つ目の特徴である福祉職の勤務年数が 20 年以上の者が 23.0%となっていた。専門職大学院(14.8%)、精神保健福祉士養成課程(10.0%)に比べて経験年数が長くなっている。さらに分析では、業務内容として相談援助業務(57.0%)に次いで、管理・運營業務(36.8%)となっており、社会福祉士を所持しながら管理・運營業務も行っている実態が明らかになった。また、勤務したことがある主な領域では、高齢者福祉分野(54.0%)、障害者福祉分野(47.9%)と 2 分野に多くなっていた。

二つ目の特徴として、現在所持している資格として、社会福祉士と共に介護支援専門員(46.4%)と介護福祉士(31.4%)の者が多くいたことである。そのため、介護支援専門員(介護福祉士資格所持)と介護支援専門員(介護福祉士非所持者)、非介護支援専門員で分析している。

その結果、介護支援専門員(介護福祉士)は、通信課程入学前・卒業後も業種は社会福祉施設・事業所が 70%程度で、卒業直後・現在の業務内容は、相談援助業務が 70%前後となっている。また、関心のあるキャリア形成の取り組みとして、「スーパーバイザーとしての能力の習得」が 44.8%と一番高く、相談援助業務に必要とされる専門性の習得を目指している実態が分かった。また、介護支援専門員(非介護福祉士)の社会福祉士取得率が高いことも明らかになった。

最後の特徴として、現在の業務内容が管理・運營業務との回答が 21.4%であったことである。精神保健福祉士養成課程(13.1%)に比べ高くなっている。その分析では、キャリア形成の状況での項目では、「キャリアを向上させることを目的に転職したことがある」が 12.5%、「転職の経験がない」が 29.2%と同じ職場でキャリアを形成する傾向が見られる。さらに、関心のあるキャリア形成の取り組みとしては、「経営・管理能力の習得」が 56.5%と一番高くなっている。この群は、一つ目の特徴である「福祉職の勤務年数が 20 年以上」の群と比較的近い傾向が示している。

今回の分析で、社会福祉士養成課程の卒業生に二つの群が存在すると明らかになった。一つ目は、福祉の勤続年数が長い、管理・運營業務の群と、二つ目は、介護福祉士、介護支援専門員を取得し、社会福祉士を取得した相談援助業務に就いている群である。これらの分析を基に、通信教育科の有効な募集戦略や、本学が行うリカレント教育・キャリア形成プログラムの有機的な連携を計っていかねばならない。また、入学者のキャリア形成構築をサポートできるよう在学中から魅力あるオプション講義の設定を考える必要がある。

#### IV. 総合考察と展望

通信教育科社会福祉士課程卒業者は、社会福祉学部、通信教育科精神保健福祉士課程、専門職大学院の卒業生と同様に、いずれもキャリア形成に関心が高く、「自分のキャリアをより良いものにしようと考えた」人は88%を占めた。中でも、通信教育科社会福祉士課程の特徴は、自職場の中でキャリア形成をして行こうと考える人が多いことである。介護支援専門員、介護福祉士、看護師などと併せて社会福祉士の資格を取得することを目指している。認定社会福祉士の取得なども目指されている。福祉系大学に期待されるものとしても、「専門的知識の習得」「専門的技術の習得」に続いて、「スーパーバイザーとしての能力の習得」「経営・管理能力の習得」「実践的研究能力の習得」が求められている。

通信教育科社会福祉士課程卒業者は、他の部局卒業者と比較して年齢層が高く、実践経験が長い人が多い。そのため特に「スーパービジョン」の力量、「経営・管理能力の取得」が自職場を含む福祉現場をより良くするものとして志向されているのであろう。通信教育科で社会福祉士の取得を済ませた後に、これらの資質・力量を身につけるためのキャリア形成の機会が提供されることが望まれる。

社大学が提供する提供するキャリア形成プログラムに関心を寄せるものが多い中で、リカレント講座、大学院への関心が高かった。現在通信教育科卒業後の進路として通信教育科から専門職大学院への推薦入試制度を設け、社会福祉学部でも両大学院への推薦入試を設けている。在学中から大学院の授業の聴講することへの希望も出されており、さらに積極的な取り組みをおこなう必要があるだろう。通信養育科在学中にあったら良かったと思うオプションコースの項目に、「社大学部・専門職大学院・研究科大学院の聴講」「社大講師陣による特別講義」「ゼミ形式での学び」が3～4割を占めており、在学中から将来のキャリア形成をイメージすることが望まれる。

通信教育科社会福祉士課程卒業者は、高齢者福祉分野、障害者福祉分野で福祉職としてのキャリアを形成するものが多い。そのため、介護福祉士や介護支援専門員など介護系職種の資格を併せ持つ人たちが半数以上を占め、これらの人たちのキャリアをより良いものにするための継続教育の機会を提供することも同時に考慮すべきであろう。

福祉プログラム評価教育、EBP教育については、他の部局卒業者と同様に、まだそのニーズは十分に高いとは言えない。しかし、キャリア形成ニーズとの相関が高く、意識の高い卒業生が具体的に獲得をめざす学習成果として、福祉プログラム評価教育、EBP評価教育は位置づけることができるであろう。

より良い社会福祉実践を展開するために日々の実践に創意・工夫をこらすことは資質の高い福祉専門職の資質として不可欠のことである。日々の実践をより良いものにする方法として福祉プログラム評価という手法の有効性を体得し、それぞれの実践を、科学的根拠に基づいた効果的な実践に発展させることの意義と必要性を体得できるセミナー・ワークショップなどの機会を、意識の高い卒業生に積極的に提供することが必要になろう。